

## 何が、男性に起こっているのか

Sven-Axel Månsson

現代社会において男らしい生活の描かれ方は、分断され矛盾に満ちている。職業生活に、家庭に、愛情に、男性の生活のすべてのレベルにおいて古い理想と新しい理想の間に強い緊張が存在する。多くの男性が、特に若い世代ほど、男としての人生のレパートリーがより広くなってきているように見える。例えば、社会的に、感情的に、性的に。

当然のことだが、この拡大には疑わしい部分が多く残っている。批評家が示すところによると、この点は中産階級の男性に特に顕著に見られる。低い社会層の状況は、滅多に議論されない。さらに、女性との平等、友情、忠誠のような感情面での協調性が高まっていることが注目されると同時に、現代男性には異性を具象化し、即物的にとらえることを特徴とするような古風な男性モデルを強化する傾向がみられる。これに続いて、積極的な反フェミニズムと、売春や性的虐待の形を取った包括的な性的暴力という多様な表現がみられる。

問題は後者の男性についての見解は一般に世論では支配的な意見ではないかどうかである。もし、マスメディアによってその状況がモニターされたとしたら、男性のセクシュアリティは深刻な社会問題を増加させる大きな要因となってあらわれるだろう。この場合の深刻な社会問題とは、近親相姦、レイプ、暴力を受け続ける女性、未成年者に対する性的いたずら、暴力や子どもに関するポルノグラフィの生産と消費、家庭や外国での買春行為などである。エイズはこの10年間で増加した。世論では、エイズはしばしば特に男性の行動の結果としてみなされる。

これらすべての要素をみると、われわれは深刻な社会問題として男性のセクシュアリティ像を抱く。そして、たとえこれが性的行動やもっと少ない特別な男性の集団による要求しか含まないものであっても、その結果である犠牲者の大集団は、打撃を受けたセクシュアリティによって生涯を通じて苦しみ続けている。

われわれ男性にとって苦痛に満ちたものであったとしても、破壊的な男性のセクシュアリティについてのこの議論は必要である。衆目から隠され、守られてきた事柄が明らかにされる。そして、男性の性的行動に関わる醜い話や、「征服」が明らかにされる。女性や子どもに対するさまざまな種類の性的虐待から、ヨーロッパの売春宿に送り込まれてき

た貧しい第三世界の女性に対する搾取に至るまで、あらゆることが隠されている。この犯罪的な行動のうちのいくつかは新しいものではない。以前より規模が大きくさえなっていないかもしれない。

いくつかのケースでは古いこうした犯罪は新しい「近代的」な形態（インターネットによる売買春斡旋業、テレクラ、デートクラブなど）をとるようになった。最も大きな違いは、なんと言っても沈黙が破られたことにある。

### 分裂するジェンダーパワー

それでは、私たちはこの公的な暴露行為の背景をどのように解釈すべきなのだろうか。一般的にいうと、ジェンダーの構造がこの数十年間でどちらの方向に変化したのかという問題について専門家の間では意見が一致していない。一方では、女性は公的な舞台において、疑いもなく、彼女らの立場を押し進めてきた。女性は、以前よりずっと、政治に参加し、教育を受け、労働市場に参入している。もう片方では、多くのものが一決して少ないジェンダー研究者が一主張するのは、われわれが成し遂げてきた平等とは男性社会の枠組みの中での平等である、ということだ。男性支配は弱まっていない、形式と内容が変化したにすぎない（Holter,1992）。曖昧で否定的な傾向にも関わらず、やはり男性としての権力が分裂させられたことには疑いはない。そして、男女の力関係の中核としての男性のセクシュアリティは、少なからず世論に問われ、身をさらしている。

「男性の視点からみた」状態は両面価値的と特徴づけられる。これは大げさな主張ではない。男性の性的暴力の大部分は、おそらく男性支配の権力行使に平気だからというよりはむしろ不安や恐れに由来している。多くの女性がもはや男性の性的支配を受け入れないのは事実である。現代の女性は性的満足を受けることと与えることの両方を期待している。結婚しているパートナーは二人とも以前より多大な性的要求と期待を持っている。全て、これらの変化は男女両方に大きな影響を及ぼした。おそらく、男性にとっては困難きわまりないことである。彼らは過去を引きずっており、起きている事態にしばしば強い両面感情を持っている。多くの男性によって、こうした反フェミニズムの言動は示される。これらは女性の要求や期待に対して、また、それらをどのように取り扱うべきかに対して、しばしば彼らが抱くおそれと不安に根ざしている。激しい男性の征服欲は残っており、自発的に性的な同意を示す女性との出会いは、古くなじみのある様式を土台から崩すような脅威をもっている。

## 敗者とペテン師

ノルウェーの社会学者 Prieur と Taksdal とによって似通った見解が公表された(1989,1993)。彼らは男性が売春婦を買う動機についての分析から、近年、買春する人には二種類あることを見いだした。

第一はほとんどが年齢層が上のグループである。彼らは男女間の関係の変化を受け入れようとしない、あるいは受け入れられない。著者らはこれらの男性についてそれぞれ「伝統主義者」「敗者」という用語を用いている。これらの男性は男性が女性を支配するという過去の認識にしがみついている。しかし個人的あるいは社会的理由により、彼らは実生活でこういった支配を行う機会が無い。買春の役割はこの不足分の埋め合わせである。必要なのはお金だけである。この見解によると、買春する人は、両性関係の変化を受け入れられない伝統的な男性として見いだされる。故に、売春婦を買うということは、古いジェンダー様式を復活させるのと同じということになる。

もう一つのグループは、Prieur と Taksdal によるとほとんどが若い男性で成り立っている。彼らのジェンダーやセクシャリティの視点は現代社会に大量生産されたセクシャリティについての幻想によって影響を受けている。特にセクシャリティについては全てが可能なことと知覚される。いわゆる性の解放、避妊方法、ポルノグラフィ、テレビの性的な娯楽番組、挑発するようなあるか無きかの衣服など。これらのこと全ては、性的冒険は制限が全く無いかのような印象を与える。Prieur と Taksdal によると、性へのこれらの期待は、買春のための土台を作り出す。買春においては、客が自発的に支払う限り選択肢は無制限である。可能な限り多くの性的接触を持てることばかりではなく、他の状況や関係からは許されないような規範や制約を越えることさえできる。ここでは、古い様式もまた維持されている。しかし、新しいあるいは以前とは異なった表現の方法をとっている。

Prieur と Taksdal は、これらの買春する者を「ペテン師」と呼ぶ。彼らは性的な舞台の上で最も現代的な俳優である。彼らは女性との現実の出会いを避けている。なぜなら、対等なパートナーとの関係で自分を見失うことを恐れるからである。またきっと、幻滅されたり、誘惑されることへの不安をも、ペテン師・買春する者は、自分がお金の力でコントロールすることができる世界へと導く。強姦者もまたこのペテン師の範疇に含まれると Prieur と Taksdal は述べている。彼らはパートナーの意志や要求に対等に向き合おうとはしない。彼らはそれにあえて挑戦などはしない。彼らの力を発揮する方法は暴力である。暴力は、関係上の「釣り合い」を取り戻す手段として正当化される。すなわち男性はかれの権力の維持のために殴りつけ、レイプする。

## 暴力と失われたジェンダーパワー

男性の暴力は失われたジェンダーパワーを埋め合わせる表現であるという理論を、どの程度受け入れることができるかが問題である。Kristin Skjorten はもう一人のノルウェーの研究者である。彼女は男性の虐待者にインタビューをしてきた。彼女は多くのインタビューから次のように結論づけた。男性の話からは「矛盾した気持ち」が読みとれる。男性は女性から愛や是認を求めている。そして同時に彼女に対する権力や支配も要求しているのだ。

このことは何を意味するのだろうか？このことは、男性の女性に対する権力や支配といった関係もまた愛情と親密さによって示されるという大事なことに気がつかなくてはならないことを意味する。換言すると、上の者は下の者を愛し、下の者も上の者を愛するという形であられる特殊な権力関係である。この関係は権力行使を促進も抑制もする。現在のレイプに関する研究では、この複雑さを無視する傾向がある。愛情を権力の問題にすり替える傾向がある。現実の生活はそれほど単純ではない。

女性に対する男性の愛情は、決してこれを全て権力問題に置き換えることはできなかった。Skjorten が述べているように、男性の行動にはしばしば「矛盾した気持ち」がみられる。これは権力を維持したい、そして放棄したいというような同時に存在する要求がもたらす曖昧さなのである。

この曖昧さを理解するには多くの方法がある。社会的には、現代の理想的な男の生活というものの進展への反応としてもみうけられる。伝統的な男らしさの理想は未だに多くの男性を捉えているのであるが、それらの理想と現実の生活の間には激しい緊張がある。Priour と Taksdal 、Skjorten の研究は両方とも、このことを示した。多くの者がこのことを克服できない、方策をもたない、そしてこれらの理想に基づいて生きるつもりはない。彼らは新しいルールの設定を望むが、それを明らかにできない。多くの男性は女性がこのような高い期待を抱くことに不平を述べる。彼らは家族や企業や社会の要求に応えられないことを残念に思う。彼らは全ての責任に疲れ果てている。その一方、買春では何の要求もされない。男性は支払いの後は立ち去ることが自由である。そこには何の人間的な感情も責任も無い。

現代の理想的な男性生活の進展とは、明確なガイドラインや、何が正しくて何が間違っているかを説明したモラルが無いことを意味する。この結果は自然に明らかにされており、以前は何の問題もなかったことが今では問題に満ちあふれている。これは男性のセクシュアリティについての事例である。今までは、男性のセクシュアリティは家父長制社会の社会的条件の枠組み内で問題となってきた。そしてこの家父長制社会はまた男性のセクシュアリティの前提条件となってきたのである。しかし、これらの前提条件は今や変化しつつ

ある。男性の家族内、買春、その他の場所での性的な犯罪や虐待が公的に暴露されることは、この変化の明らかなあらわれと認識することができる。これは多くの男性にとって、痛みを伴う変化である。けれども、開かれた将来へと誘う変化でもある。例えば、今までのように誰にも知られずに買春ができなくなった影響については誰もが推測できる。そしてその変化のさらなる広がりのために、客は彼の行動の結果に対して、社会的、人間的にもその責任を問われる。短期的にはこのことはおそらく快楽や特権といった問題に関して不満や不自由さをもたらすだろう。しかし長期的には、その結果として女性との関係に「ごまかし」をなくす方向に進むだろう。買春の結果と責任をもって対面することは、興味深いことに、男性が社会的に対等なパートナーとの関係を築くことを選択する自由をもつことを意味するだろう。

しかしながら、周知のように多くの男性がこの動向に抵抗している。根強い退行や反フェミニズムの特徴がいく人かの男性の反応や態度にはみられる。それらの反応は、明白な喪失感と、さらに様々な関係にある女性に対する抑圧や心得違いの攻撃を通じてその喪失感を補償する必要性を示す。そして、多くの男性による買春やその他にみられる強要された性的彷徨は、おそらく、この喪失感から説明される。女性を追うことにより、彼ら自身の中で彼らが失ったものを捜す。その要求は、ある状況のもとで、すなわち分別のない怒りや暴力といった条件下にそれ自体の姿を現すのである。

(森政淳子)